東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

The Implementation of Online Inter-School Exchanges, and Points of Consideration : Regarding Exchanges with Kochi Kokusai Junior and Senior High School & Beijing Yuetan Middle School

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-04-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 前田,陽子, 秋森,久美子, 白井,裕史 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00173836

国際中等教育研究　第15号 p.209 ～ 217
東京学芸大学附属国際中等教育学校研究紀要

オンライン学校間交流の実践とその課題

―高知県立高知国際中学校・高等学校及び中国・月壇中学校との交流から―

The Implementation of Online Inter-School Exchanges, and Points of Consideration

– Regarding Exchanges with Kochi Kokusai Junior and Senior High School & Beijing Yuetan Middle School –

JSL・交流委員会（交流）　前田　陽子
秋森久美子
高知県立高知国際中学校　白井　裕史

１章　高知県立高知国際中学校・高等学校との学校間交流の記録

１節　経緯

本校では、2014 年度より毎年、高知県教育委員会から IB 研修のため複数教科に教員が派遣され、その受け入れを行ってきた。高知県の IB 派遣教員は、派遣期間終了後に高知県立高知国際中学校・高等学校（以下、高知国際中・高）に勤務することから、本校と高知国際中・高の両校教員のネットワークができたことで、2020 年度から JSL・交流委員会では、両校の生徒が交流する機会を提供するために「Glocal Café」と題した学校間交流を高知国際中・高と合同で企画・実施することとした。

２節　実施の概要

本企画の対象学年は本校２・３年生と高知国際中の２・３年生とした。これには理由がいくつかあり、高校生を対象とした交流プログラムは様々な団体で実施されているが、中学生を対象とした交流プログラムは少ないため中学生へ参加の機会を提供すること、本校前期課程及び高知国際中は MYP を実施しており MYP 段階の生徒に交流の機会を提供すること、一つの課題に両校の生徒が共同で取り組むことを想定すると、ある程度の活動期間が必要なため進学に向けて動き出す学年の生徒を長期間参加させることが難しいこと、課題への取り組み方にある程度慣れた学年が適当と考えられることがあった。

企画の目的として、両校生徒が共同でグループ活動を行うことで、各学校生活だけでは得られない同年代との交流や知的活動の刺激を受ける場を提供すること、グループ活動を行うことで、日本国内における地域の多様性を理解し、自分たちの住む国について理解を深めること、また、両校の継続した学校間交流へと発展させる機会として位置付けることであった。

活動は、両校生徒が混合する少人数グループをつくり、月１回放課後に各回１時間程度のオンラインによるグループ活動で、高知県をフィールドとしたテーマを一つ設定し、テーマに沿った３泊４日の研修旅行案（旅費 10 万円以内）を作成する。その中から選ばれた旅行案を研修旅行として実施し、両校生徒の研修および交流の機会とすることであった。

実施に向けて、2020 年６月頃より両校の担当教員がオンライン会議で打ち合わせを重ね、2020 年 10 月に生徒へ活動を告知し参加メンバーを選抜した。本校から２年生８名、高知国際中・高から２年生６名、３年生３名がメンバーとなり、３グループで活動を開始した。

３節　Glocal Café の実施状況

オンライン交流

第１回	2020 年 11 月 10 日　16:15〜17:15
交流内容	両校校長挨拶、活動の説明、グループメンバーとの顔合わせ、テーマの設定
オンラインを利用した対話を始めて行った生徒も多く、お互いに緊張しつつも同世代ということで会話を楽しみながら、それぞれが自分の興味があるテーマを示し、グループごとに活動テーマ決定に向けた役割分担を行っていた。	

第２回	2020 年 12 月 16 日　　15:45〜16:45
交流内容	グループごとにテーマの決定、研修旅行案作成にむけた下調べの打ち合わせ
各グループでテーマを決定し、研修旅行で訪れたい場所を決めるための調査場所や分野の役割分担を行った。高知国際中・高の生徒が高知について本校の生徒の疑問に答える形で話し合いが進んでいた。	

第３回	2021 年 3 月 22 日
交流内容	研修旅行案の発表会に向けた最終打ち合わせ
グループごとに調整した時間で、作成したスライドの加筆修正点と各自が発表を担当する部分の確認をおこなった。	

第４回	2021 年 3 月 25 日　13:15〜15:00
交流内容	研修旅行案の発表会
両校の校長各１名、両校の担当教員団２チームのあわせて４枚の評価シートにより、３グループが設定したテーマに基づく３泊４日の研修旅行案を発表した。3 グループの考えた研修旅行案は、①高知県の人口減少への問題意識から「高知県外の若い人に高知の魅力を知ってもらうツアー」、②高知県を訪れる観光客が少ないことへの問題意識から「高知の魅力を知ってもらうための PR 動画作成ツアー」、③都会の人に高知県の自然と歴史の魅力が知られていないことへの問題意識から「高知のアウトドアツアー」であった。この中から、②のグループが、自ら動画作成をして発信するという点が評価され、実際の研修旅行案として採用された。	

本来 11 月から月１回でのオンラインミーティングを行う予定であったが、2021 年の１月・2 月は東京に緊急事態宣言が発出されたため、本校で放課後の課外活動ができなくなり行えなかった。この間は、両校生徒がそれぞれの校内でグループ活動した旅行案作成に関する内容を、両校教員が間に入って学校間でのデータにやり取りを行った。2021 年 3 月以降は、7 月実施の研修旅行に向けて、学校交流（高知国際中・高を訪問する際の企画・運営）・しおり/記念クリアファイル作成・動画作成の 3 チームに 17 名を再編成し研修旅行の準備を開始した。2021 年 4 月以降は本校の Teams に高知国際中・高のメンバーが参加し、Teams 上でデータのやり取りを行うことで作業の円滑化を図った。

研修旅行は 2021 年 7 月 29 日〜8 月 1 日に行う予定であったが、東京に 4 回目の緊急事態宣言が発出されたため、日程を 12 月 24 日〜27 日に延期した。

4節　高知研修旅行の実施

高知研修旅行（行程は図１）は、天気にも恵まれ予定通りの行程をこなすことができた。両校生徒は初日から少しずつ仲良くなり４日間を楽しんでいた。作成された行程では時間に余裕ができたとこもあり、香美市立やなせたかし記念館他数か所の見学を追加した。

日	日程の概要	移動手段
12/24 （金）	7:55　9:20　12:30　昼食：チキン南蛮弁当 羽田空港 → 高知龍馬空港 → ホテル（荷物を置く） → 高知国際中・高 …交流 … 連絡バス　路面電車 15:00　19:00 → 龍馬が生まれた町記念館・石碑・歴史関係地散歩 → 帯屋町（はりまや橋）→ ホテル 路面電車 夕食：龍馬バーガー	飛行機 連絡バス 路面電車
12/25 （土）	8:30　11:00　14:30　15:20　18:45 ホテル発 → 室戸ジオパーク → 廃校水族館 → 室戸岬 → ホテル 昼食：お弁当　夕食：西村商店（和食）	貸切バス
12/26 （日）	8:30　昼食：ひろめ市場周辺で各自 ホテル発 → 日曜市・高知城周辺の散策（バス：高知駅） 14:30　17:30 →（JR：伊野駅）紙の博物館 →（JR：伊野駅）→ ホテル 紙漉き体験　夕食：中華	バス JR土讃線
12/27 （月）	9:00　14:00　16:00　17:30　18:20 ホテル発→ 龍河洞 ・ふりかえり →高知龍馬空港 → 羽田空港 解散 昼食：和食	貸切バス 飛行機

図１　高知研修旅行の行程

5節　成果と課題

1．実施から見えてきたこと

今回のオンラインを含む学校間交流を実施したことで複数の考慮すべき点が見えてきた。

①両校行事日程の違いによるスケジュール調整の難しさ

両校の授業時程は学期制、定期テスト等の行事日程が異なるため、両校の生徒の個人的な活動の時間を確保しながら、オンライン交流や旅行の日程を決定していくことが難しい。この点は学校間交流をする際に一番難しい点であるといえる。

②長期間の活動に対する生徒のモチベーション維持の方法

長期間にわたり活動をする際に、対面して一緒に活動する機会が最後まで無い事から、活動に対する生徒のモチベーションを維持できるように、教員側からの意識的は働きかけが必要であると感じた。また、両校生徒が少なくとも２週間に１回ほどは連絡を取り合うことがモチベーションの維持には望ましいと思われる。

③活動のプラットフォームの必要性

上の②に関連して、両校生徒が連絡を取り合える体制を作ることがより良い活動にしていくのに不可欠である。全体のオンラインミーティングは本校が契約しているZoomのアカウントを使用したが、それ以外の各グループの連絡手段として試行錯誤した。元々、本校ではoffice365を使って生徒と教員間の連絡を取っている。一方、高知国際中・高はGoogleクラスルームを使用しているため、両校で共通のプラットフォームがなく、セキュリティ面や生徒指導上のSNSの使用方法などの点からLINEの使用も禁止していた。結果、2021年3月までの活動では、Googleアカウントによるメーリングリストを作成したが、上手く機能しなかった。そのため、2021年4月より、本校側のoffice365で高知国際中・高のメンバーのメールアドレスを発行し、Teamsをプラットフォームとして活動を開始した。これにより、両校生徒の連絡は作業効率が大きく向上した。

④生徒のアンケート

参加メンバーへのアンケート調査では、この活動を通して最も身に付いたと思うIBの10の学習者像として、コミュニケーションのできる人を選択する生徒が7割を占めた。どのように相手校の参加メンバーと楽しくコミュニケーションをとれば良いのかを考えたという振り返りがほとんどで、学校間交流という主旨を参加メンバー自身も意識して取り組めていた。

⑤新型コロナ禍におけるスケジュールの再調整

今回の活動期間は、新型コロナウイルスの全国的な感染状況に大きな影響を受けた。特に緊急事態宣言によりオンライン活動の中止や研修旅行の延期など、当初予定していたスケジュールの大幅な見直しが何度も必要となり、担当教員たちの負担は非常に重かった。一方で、研修旅行が無事実施でき、両校の参加メンバーが交流を楽しむ姿を目にすることで、学校間交流の意義を再認識できる機会となった。

２．高知国際中・高の立場から

１年以上にわたる交流期間と探求テーマをもとに共同で課題解決に向けて取り組むという壮大で貴重な経験となった。また、コロナ禍により、再三にわたる計画の変更などもあり、実際に実施するにあたっては多大な時間、労力、モチベーションの維持、費用、など取り組みでは高度な自己管理スキルが求められるため、そのスキルの伸長やリモートを使ったコミュニケーションから始まり、当日の直接的なコミュニケーションも実践的なコミュニケーションスキルを伸長する機会にもなった。また、今回は高知に来てもらう立場であり、地元の魅力を再発見する機会にもなった。

当日までの生徒は日々の課題の提出などもなかなかままならないため、原稿などの提出や打ち合わせの時間に遅れるなど、多大な迷惑をかけたが、「普段通り」ともいえ、この取り組みをきっかけにそのスキルの高い伸長については見とることが難しかった。

当日の取組では、ほんの30分で互いに打ち解け、自分たちで考えたレクで盛り上がり、自分たちが暮らす街や自然を案内姿も多く見られた。また、どうしてＪＲにわざわざ乗るのか（東京に住む人にとっては自分たちにとっての日常が、貴重な体験であること）という疑問がわくなど、お互いの違いに気づく場面も多くあった。

スキルの伸長やお互いの良さを取り入れるといった成果が表れるのはまだ先ではあるが、貴重な経験がもたらした郷土について人を案内しながら考えたことや、そのためのコミュニケーションはこのような取り組みがなければ得難い経験であると思う。　（文責　白井裕史）

3．本校の立場から

東京を中心とする首都圏で生活している本校生徒たちにとって、日本の他地域は具体的なイメージがあまり持てていなかったが、研修活動を通じて、日本の地域の多様性を実感することができていた。特に高知国際中・高のメンバーが案内してくれた高知の各所での人々の生活を見て体験することで、郷土（地元）への愛着というものを実感したと振り返るせいとが多かった。今回の参加メンバーであった８名は、本校入学から１年ほどで新型コロナウイルスによる２か月の休校と、その後の２年生としての学校生活も多くの制限の中で過ごしており、課外活動や部活動など体験を通じて学ぶ機会に恵まれない部分があった。その点で、今回の活動は、生徒にとって貴重な機会となったように思う。また、期限を設定して本活動のこなしていくことで、校内での学び以外の場面で自己管理スキルを伸長する機会となったこと、高知県という場所をフィールドにすることで日本の「多様性」について深く考える機会となったことが良かった点であったと思われる。

６節　成果と課題

本活動を通して、長期的な活動を実施する利点があった一方で、特に高知国際中・高側は部活動が活発なため、部活動の試合や大会への参加と本活動が重複し、長期間の活動に最後まで参加できない生徒もいた。2021 年 10 月から第２期【Glocal Café】を 2022 年９月までの日程で開始したが、第 2 期に参加に興味を示しながらも、活動期間が難点となり参加できない生徒が出たことで、両校の学校交流のあり方を再考する必要があると考える。

また、本活動の運営に携わる教員を、本校側では教員分掌の JSL・交流委員会が担当しているが、高知国際中・高の教員分掌ではこれに該当する部署と人選をどのようにするかが今後の検討事項である。学校間交流はその運営における各校の教員の確保に対する課題が、学校間交流を継続する上で重要である。（文責　前田陽子）

２章　日中高校生オンライン交流の記録

１節　経緯

コロナ渦で海外の学校と直接的な交流が出来なくなって１年以上が過ぎた５月、国際交流基金日中交流センターから「日中高校生対話・協働プログラム」への参加を打診された。もともと本校は中国からの留学生をこれまで毎年受け入れてきた実績がある。せっかく築いてきたこの繋がりを大切にする意味もあり、今年度新たな試みとして、北京市月壇中学とのオンライン交流に取り組むことにした。「『君の街は。你的城市。One-Day Trip をプロデュース！』プロジェクト」と名付けたこのオンライン交流の取り組みには、「互いの国を知り、互いの街の一日旅行プランを協力して作り、コロナ渦が治まったときに、高校生の時の自分たちが考えたプランでお互いの街を訪れ交流ができたら楽しいだろう、そのような場面を必ず実現させたい」という、将来への期待も込められている。

２節　交流の概要

日中両国の高校生がお互いの地域社会や文化についての共通のテーマや共通キーワードを設定し、互いの学校のある地域を中心とした 1 日の旅行プランをそれぞれグループ（日本の学生 2〜3 名と中国の学生 2〜3 名の混合グループを複数作る）で考え、作成する。その際、日本側は相手の学校のある地域の、中国側は本校の所在地である東京のプランを考える。互いに相手の地元について、調

べあい、教え合い、アドバイスをしあいながら具体的な実行可能な旅行プランを作成することに協働でチャレンジする。最終的には実際に中国の学生が作った「東京」を旅行するプランを、日本側の生徒が実際に実行してみてその様子を動画や写真で記録する。同じように中国側の生徒は、日本の学生が作った「中国」の旅行プラン通りに実際に場所を訪問し、その様子を動画や写真で記録し、互いに発表する。相手の地元や学校を知り、共同でコミュニケーションをとりながら作業をすることを通じて、連帯や協力の意識を高める。

３節　交流の目的

互いに相手の学校の地元での一日旅行を計画するためには、単なるインターネットやガイドブックから得るだけの情報だけでなく、必ず相手とより綿密な打ち合わせを重ねていかなくてはならない。この協働事業の目的は、日中両方の高校生でそれぞれ協力して各グループで共通のテーマで 2 つの旅行プランを作りあげていく共同作業の過程で、コミュニケーションを深め、同じ目的に向かって何かを成し遂げる喜びを感じてもらうことである。このコロナ渦の中、海外への旅行や留学は現在自由にできないが、最後にそれぞれが作りあげた相手側のプラン通りに日中の高校生が自分たちの地元を一日旅行し、互いに報告ができれば、より深い連帯の意識を持つことができると考える。

４節　交流の目的

交流の実施状況

この交流に関する活動は９月から３月までの半年以上の長期にわたるため、参加生徒にも学校代表であるという高い意識が求められる。参加者募集の際には、事前説明会を開催し、その後希望者一人一人に面接を実施するという手続きを行った。その結果、この交流に参加を希望した生徒は高校１年生２名と高校２年生４名であった。いずれも中国への関心が高く、国際交流に前向きな生徒たちである。なお、この交流において使用する言語は日本語と中国語である。

なお、北京市月壇中学は高校生６名が参加した。

１．事前準備から実施、記録冊子作成までの流れ

９月　３日	（金）参加希望者説明会（高校１年生２名　高校２年生４名参加）
９月　８日	（水）参加希望者申込締切（高校１年生２名　高校２年生４名計６名の参加が決定）
９月 14 日	（火）第１回 ISS 生徒打ち合わせ「交流概要の確認」
９月 15 日	（水）第２回 ISS 生徒打ち合わせ「グループテーマ決定に向けての話し合い」 北京市月壇中学の先生との教員事前打ち合わせ（オンライン）
９月 16 日	（木）第３回 ISS 生徒打ち合わせ「オンライン交流の進行」
９月 27 日	（月）第４回 ISS 生徒打ち合わせ「第１回日中交流のためのリハーサル」
９月 28 日	**（火）北京市月壇中学との第１回オンライン交流**
10 月　７日	（木）事前研修「やさしい日本語」参加
10 月 15 日	（金）第５回 ISS 生徒打ち合わせ「具体的な旅行プランを考える」
10 月 18 日	（月）第６回 ISS 生徒打ち合わせ「第２回日中交流のためのリハーサル」
10 月 19 日	**（火）北京市月壇中学との第２回オンライン交流**
10 月 28 日	（木）第７回 ISS 生徒打ち合わせ「パンフレット作成に向けて」

11 月　5 日（金）第 8 回 ISS 生徒打ち合わせ「旅行プラン及び旅行日の決定」
11 月　8 日（月）第 9 回 ISS 生徒打ち合わせ「第 3 回日中交流のためのリハーサル」
11 月　9 日（火）北京市月壇中学との第 3 回オンライン交流
11 月 30 日（火）One-Day　Trip パンフレットの完成
12 月 13 日（月）第 10 回 ISS 生徒打ち合わせ「旅行の詳細な流れ及び費用の見積もり」
12 月 22 日（水）第 11 回 ISS 生徒打ち合わせ「旅行実施前最終確認」
12 月 23 日（木）『空間』グループ主導の One-Day　Trip の実施
1 月　5 日（水）『時間』グループ主導の One-Day　Trip の実施
1 月　6 日（木）One-Day　Trip の会計報告書提出
1 月 12 日（水）第 12 回 ISS 生徒打ち合わせ「第 4 回日中交流の発表に向けての準備」
1 月 16 日（日）北京市月壇中学から緊急連絡→第 4 回オンライン交流の延期が決定
1 月 19 日（水）第 13 回 ISS 生徒打ち合わせ「第 4 回日中交流の日程変更と今後の予定」
1 月 20 日（木）北京市月壇中学との第 4 回オンライン交流→3 月に延期
1 月 24 日（月）第 14 回 ISS 生徒打ち合わせ「記録冊子の打ち合わせ①」
1 月 25 日～28 日　原稿執筆とアンケートの作成・原稿やアンケートの依頼
1 月 31 日（月）第 15 回 ISS 生徒打ち合わせ「記録冊子の打ち合わせ②」
2 月　9 日（水）第 16 回 ISS 生徒打ち合わせ「記録冊子の打ち合わせ③」
2 月 14 日（木）ISS のみで発表会の実施とその様子の動画をとる
2 月 15 日（火）第 17 回 ISS 生徒打ち合わせ「記録冊子の打ち合わせ④」
2 月 25 日（金）記録冊子原稿完成
3 月 29 日（火）北京市月壇中学との第 4 回オンライン交流の予定
上記の打ち合わせは教員側からの提案で実施されたが、これ以外に生徒はグループで時間を調整しあい準備に取り組む

2．オンライン交流の内容

北京市月壇中学（高校生 6 名）との交流は 9 月から 1 月までに全 4 回実施される予定であった。11 月までの 3 回のオンライン交流は予定通り実施されたのだが、1 月 16 日に北京市月壇中学から「北京でコロナ感染者が出たため、教育委員会の指示で北京市の小学校、中学校、高校が一斉に休校になった」という旨の緊急連絡が入り、その結果、旅行の様子をプレゼンし、この交流全体の振り返りを行う最終発表会として 1 月に予定されていた第 4 回オンライン交流は 3 月に延期せざるをえないという事態が生じた。そのためここには第 1 回から第 3 回までの簡単な交流内容と生徒の様子を記載する。

第 1 回	2021　年　9 月 28 日　　16 時 50　分～　18 時 00 分
交流内容	学校長挨拶・学校紹介・メンバーによる自己紹介・グループテーマは「空間」と「時間」、全体のテーマは「Change」に決定。
両校とも多少硬さもみられたが、最後のフリートークでやっと打ち解けてきた。中国の生徒たちの自己紹介を聞き、「メンバーの名前は聞いただけではわからない、書いてもらえばよかった、何と呼べばいいかを尋ねればよかった」などの意見があった。	

第 2 回	2021　年　10 月　19　日　　16 時 50　分～　18 時 00 分
交流内容	旅行する互いの場所の候補についての話し合い
第 1 回交流会から、少し時間があいたせいで、最初はまた初回のような緊張感がみられたが、グループごとに日本語や中国語で話し合っていくうちに、だんだん慣れてスムーズに進むようになった。途中ネットがうまくつながらず、何度か中断を余儀なくされたのは残念だった。	

第 3 回	2021 年　　11 月　9 日　　16 時 50　分～　18 時 00 分
交流内容	各グループからのコース発表とパンフレット制作に向けての話し合い
3 回目となると、お互いにかなり慣れて、特に「食べ物」の話題で盛り上がった。旅行では「このようなものを自分たちの代わりに食べて、その感想を教えてほしい」というリクエストもあり、終始和やかな雰囲気の話し合いができていた。「『食』の話題は万国共通で話しやすいし、話していて楽しい、今日がこれまでで一番交流した気がする」というのが生徒たちの共通の感想であった。	

3．One-Day Trip の実施状況

北京市月壇中学「空間」グループによるプランの One-Day Trip	
実施日時	2021 年 12 月 23 日　8 時 50 分～18 時 00 分　6 名参加　引率教員 3 名
コース	浅草寺→東京駅→新宿駅→新宿御苑→六本木ヒルズ
北京市月壇中学の生徒が作成した「空間」パンフレットを手に、街の「空間の変化～高さ・低さ」を意識しながら実施した。浅草では中国の生徒たちからの強い要望があった「おみくじ」を引き、日本の伝統的な「食」にも再注目した。これまでは単なる電車の乗り換え地点としか考えてなかった東京駅や新宿駅の駅舎を訪れ、じっくり見直す。新宿御苑から高層ビル群をのぞむ。夕刻、六本木ヒルズから東京全体の夜景を見下ろしながら、「住んではいるけれと、実は自分たちが知らなかった東京があることを実感した一日だった」と振り返った。生徒たちには地元東京を別の視点から見つめる機会となった。	

北京市月壇中学「時間」グループによるプランの One-Day Trip	
実施日時	2022 年 1 月 5 日　8 時 50 分～17 時 30 分　6 名参加　引率教員 3 名
コース	東京タワー→増上寺→慶應大学→銀座→上野公園
街の「時間の変化～昔・今」を念頭に置きながら、まず、東京タワーから徳川将軍家とゆかりの深い 600 年の歴史を持つ増上寺を望む。この対比に「時間」を経ても変わらないもの、変わってしまったもの、これから変わらざるをえないものに思いをはせる。中国の生徒たちの関心の的でもあった慶應大学のキャンパスを訪問。オンライン交流をしている際に、中国側からいろいろな日本の大学を見てみたいという声があがった。それに応えるため、急遽、予定を追加して上野の東京芸術大学も訪問した。訪れたそれぞれの場所で「時間の変化～昔・今」を感じさせるスポットを意識して探しながらの One-Day Trip であった。	

5 節　交流の振り返りと今後の課題

「お互いの学校紹介や文化紹介、テーマに即した意見交換」のみの単発的な交流で終わるのではなく、途中に失敗や挫折があっても、互いにコミュニケーションを取りながら国や文化の違いを乗り越えて合意点を見出し、「協同」作業しながら何かを自分たちで「作りあげる」その過程を両国の生

徒に体験させたいという意図でこの取り組みを始めた。企画を国際交流基金日中交流センターに提案した時から、いくつかの懸念事項はあった。例えば、「①各グループごとの学校外交流の時間がかなり必要になるが、コロナ渦の中、実施するだけの時間的余裕が両校にあるか、実際に一日旅行に行くことは可能か、その際の引率はどうするか、両校の生徒のメールのやり取りや電子掲示板等の使用は可能か　②毎回事前に教員側で綿密な打ち合わせをする必要があり、相手校の担当の先生にも負担をかけてしまうこと　③旅行費用について」などが挙げられる。幸い③に関しては、必要な予算を事前に組み、国際交流基金日中交流センターに支援していただけることとなった。②に関しても、相手の先生の協力を得ることができた。①に関しては、当初の見込みと実際にできたこととの差は大きいと感じる。事前にこのような新しい試みに賛同していただける相手校であると聞いていたのだが、いざ始まってみると、相手校からは、学校の方針で時間外の生徒個人同士の交流と電子掲示板の使用は一切禁止され、また交流会の回数も多すぎるということで当初の 8 回（全体 4 回、グループごと 4 回）の予定も全体のみで 4 回となった。つまり教員同士のメールのやり取りと 1 回につき約 1 時間のオンライン交流の時間のみでこの企画を実行せざるを得ない状況となった。相手の生徒とメールのやり取りができず、なかなか仲良くなれないことに、本校の生徒たちはかなり残念さを感じたようだった。今回の経験から、海外の学校とのオンライン交流には臨機応変に対応しなくてはならない点や互いに相手の国や学校の状況に配慮しなくてはならない点、限られた時間内で伝えることを工夫しなくてはいけない点があるということを教員も生徒も強く認識させられた。限られたオンライン交流会をスムーズに行うために、前述したように本校の生徒たちは打ち合わせやリハーサルを数多く重ねた。また学校の Teams を活用し、いつでもメンバーが連絡を取り合える状況を作り、疑問点や学んだことをすぐに共有できるようにした。実際のオンライン交流の場面では、教員主導ではなく、司会進行運営などもすべて生徒が主体的に動くことができた点は評価できる。課題は多々あるが、よりよいオンライン交流の在り方を生徒と共に今後も模索しながらこのような海外との交流を継続して実施していきたいと考える。　（文責　秋森久美子）

The Implementation of Online Inter-School Exchanges, and Points of Consideration

– Regarding Exchanges with Kochi Kokusai Junior and Senior High School & Beijing Yuetan Middle School –

Abstract

This is a report on this year’s implementation of the inter-school exchange program with Kochi Kokusai Junior and Senior High School, which was launched in 2020, and the Japan-China High School Student Dialogue and Collaboration Program organized by the Japan Foundation China Center for Chinese-Japanese Exchange.